

当面のスローガン

- 差別事件の糾弾闘争を強化
- 全ての学校で同和教育実践を!
- 全自治体で同和・人権行政を!



解放新聞社山口支局

〒753-0074 山口市中央1-5-3
 TEL 083-923-2303
 FAX 083-921-1919
 http://y-kaihou.jp
 編集発行人 松岡 広昭



同和対策事業の成果などを説明する松村支部長 (写真中央)



山口県の実態について熱心に学ぶ大阪同企連の参加者

大阪同企連が現地視察

同和教育の実態が問われる

大阪同企連啓発研究会の現地研修が、昨年12月21日、宇部市隣保館厚南会館でおこなわれ、宇部支部がフィールドワークをおこない、参加者との学習・交流を深めた。

大阪同和問題企業連絡会(大阪同企連)啓発研究会は毎年自主的に自分たちで各地のフィールドワークをおこない、啓発担当者としての学習を深めている。はじめに松本卓也・山口県同教事務局長から「山口県における

まで20箇所でおこなわれた「学力促進学級」が02年の特措法失効とともになくなり、部落の子どもたちが社会的立場を自覚する場がなくなっていることの現実が語られた。

松本さんは「部落のことを、部落の方から見て学習する場がなくなる。だからなくして欲しくない!」と訴えた部落の子どもの言葉を伝え、自分たちの同和教育の取り組みの課題を述べた。

最後に、松村元幸支部長から地元の解放運動の歴史や地区の概要、部落差別の現実などの報告が行われた。

質疑では、企業の人権担当者として、新入社員研修を行うにあたり、若い人の部落問題の認知度の低下、認知経路が地域や親族から増加している現実が報告された。特措法後の学校現場での部落問題学習の低下の現実が影響している点が指摘された。

講演後、宇部支部メンバーの案内で、地区内のフィールドワークをおこない、同和対策事業の成果や課題などについて学習を深めた。

人に、部落差別の現実と差別撤廃に向けた県内の動きを知ってもらうためにHPを立ち上げることにした。

HPでは「解放新聞山口県版」や「県内のあいつぐ差別事件」「山口県の部落問題」「各種集案案内」など最新の情報を定期的に掲載していく。ぜひ多くの人にHPを活用してもらい、今後の活動に活かしてもらいたい。

2008年の年頭にあたり、部落解放へむけた決意を述べさせていただきます。今年には第二次世界大戦の深い反省から、人権確立と差別撤廃を謳った世界人権宣言が国連総会で採択されて60周年を迎える年です。

一方、今年には部落解放運動にとっては、「五万日の日延べ」を現実にしてしまう屈辱の年でもあります。

1871年「賤民廃止令」(解放令)を歓迎して迎えた、奈良県岩崎村の被差別部落の人々に対して、隣村の庄屋が「解放令は五万日日延べになった」と嘘の話を伝え、喜びに水をさそうとした事件です。計算するとその5万日が2008年になります。

不当な差別を跳ね返すために闘ってきた先人たちの部落解放への思いと、これ以上の不合理な差別の日延べは許さないと決意を持ってこの年を迎えなければいけません。

昨年山口県内では、結婚における身元調査事件、高校での部落差別発言事件、三重県の行政書士による戸籍謄抄本等不正取得が県内で10件も発覚しています。個々の糾弾闘争を通して課題も明らかになってきました。

今年こそ「人権侵害救済法」の早期制定、狭山再審、相次ぐ差別事件に対する糾弾闘争を通して、部落解放・人権確立社会の実現に向けて、共に連帯を強め、運動を推し進めましょう。

県内の仲間との連帯・情報の共有をはかり、より一層の共闘を推し進めるために、山口県連版のホームページを立ちあげました。ぜひ多くの人に活用していただけたら幸いです。

最後になりますが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念致しまして、新年のごあいさつといたします。



2008年 年頭のあいさつ
 組織強化と共闘の輪を広げ
 解放運動のさらなる邁進を

県連版のHPがついに完成



解放同盟山口県連版のホームページが(<http://y-kaihou.jp>) ついに完成した。これまで県連でも相談を受け「部落問題について悩んでいるがどこに相談していいかわからなかった」という声も多かった。また、より多くの

最後に、松村元幸支部長から地元の解放運動の歴史や地区の概要、部落差別の現実などの報告が行われた。

質疑では、企業の人権担当者として、新入社員研修を行うにあたり、若い人の部落問題の認知度の低下、認知経路が地域や親族から増加している現実が報告された。特措法後の学校現場での部落問題学習の低下の現実が影響している点が指摘された。

講演後、宇部支部メンバーの案内で、地区内のフィールドワークをおこない、同和対策事業の成果や課題などについて学習を深めた。

人に、部落差別の現実と差別撤廃に向けた県内の動きを知ってもらうためにHPを立ち上げることにした。

HPでは「解放新聞山口県版」や「県内のあいつぐ差別事件」「山口県の部落問題」「各種集案案内」など最新の情報を定期的に掲載していく。ぜひ多くの人にHPを活用してもらい、今後の活動に活かしてもらいたい。

2008年の年頭にあたり、部落解放へむけた決意を述べさせていただきます。今年には第二次世界大戦の深い反省から、人権確立と差別撤廃を謳った世界人権宣言が国連総会で採択されて60周年を迎える年です。

一方、今年には部落解放運動にとっては、「五万日の日延べ」を現実にしてしまう屈辱の年でもあります。

1871年「賤民廃止令」(解放令)を歓迎して迎えた、奈良県岩崎村の被差別部落の人々に対して、隣村の庄屋が「解放令は五万日日延べになった」と嘘の話を伝え、喜びに水をさそうとした事件です。計算するとその5万日が2008年になります。

不当な差別を跳ね返すために闘ってきた先人たちの部落解放への思いと、これ以上の不合理な差別の日延べは許さないと決意を持ってこの年を迎えなければいけません。

昨年山口県内では、結婚における身元調査事件、高校での部落差別発言事件、三重県の行政書士による戸籍謄抄本等不正取得が県内で10件も発覚しています。個々の糾弾闘争を通して課題も明らかになってきました。

今年こそ「人権侵害救済法」の早期制定、狭山再審、相次ぐ差別事件に対する糾弾闘争を通して、部落解放・人権確立社会の実現に向けて、共に連帯を強め、運動を推し進めましょう。

県内の仲間との連帯・情報の共有をはかり、より一層の共闘を推し進めるために、山口県連版のホームページを立ちあげました。ぜひ多くの人に活用していただけたら幸いです。

最後になりますが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念致しまして、新年のごあいさつといたします。

部落解放同盟山口県連合会
 執行委員長 松岡広昭

